## 2022年3月8日実施 日本大学芸術学部 一般選抜入試A方式 第2期 学力試験 英語 解答例

(配点は当校の推定によるものです)

<英語	>							
[I]	配点:24点	;各3点						
(1)	Α	(2)	D	(3)	С	(4)	В	
(5)	В	(6)	С	(7)	D	(8)	D	
[ II ]	配点:16点	i;各2点						
(9)	С	(10)	В	(11)	В	(12)	С	
(13)	В	(14)	D	(15)	В	(16)	Α	
[ III ]	配点:24点	i;各4点						
(17)	Α	(18)	С	(19)	С			
(20)	В	(21)	С	(22)	D			
[IV]	配点: 18点	i;各3点						
(23)	С	(24)	В	(25)	Α			
(26)	Α	(27)	D	(28)	D	_		
[ \ ]	配点:18点	;各3点						
(29)	В	(30)	С	(31)	В			
(32)	С	(33)	Α		D			

【短評】

問題数、出題形式、出題順は昨年通りであったが、全体としては「やや難化」の傾向。

- [I]正誤問題は、文構造をしっかりと捉えることが何より重要だが、加えて動詞の用法もおさえておく必要があるタイプの設問。レベルとしては標準。
- 〔Ⅱ〕文法4択問題は、時制、関係詞、準動詞といった受験英文法で馴染みの分野からの出題はなく、単語やイディオムに関する知識を問う問題が多く出題された。やや細かい知識も必要で、取りこぼした受験生もいたと思われる。
- 〔Ⅲ〕長文内容一致問題は、例年と同様のレベルの問題文。設問の順序と本文の展開が一致していた上、選択 肢も特にひねったものはなかった。落ち着いて取り組めれば、ある程度の得点を期待できる問題。
- [Ⅳ]会話文は、[Ⅲ]長文内容一致問題と内容が連動したパターン。平易な[Ⅲ]を先に解くことをすすめるが、 [Ⅲ]の注で提示された語彙は[Ⅳ]で繰り返し提示される訳ではなく、その点は注意を要する。(26)に迷った受 験生も多いと思われるが、選択肢BとCが同じ意味になることに気づければ、一気に2つの選択肢を消去するこ とが可能。
- 〔Ⅵ〕空所補充問題は、問題文はほぼ例年通りの難易度。内容はある種のインダストリアルデザインとはいえ、 例年のように芸術色の濃いものではなかった。選択肢の品詞が必ずしも統一されておらず、品詞の習熟度に よって差がつく問題が複数あった。

## 2022年3月8日実施 日本大学芸術学部 一般選抜入試A方式 第2期 学力試験 国語 解答例

(配点は当校の推定によるものです)

<国語>

	>								
【 I 】 配点:30点;各6点									
_	3	_ = _	1	_ = _	4	匹	1		
五	2			_					
		_							
[ II ]									
—а	2	—b	1	=	2	Ξ	3		
匹	2	五 五	2					<del></del>	
		_							
[ [ ]	配点:30点	; 問一 各	2点 問二	各3点 問	三 2点 問	四~七 各4	1点		
—а	2	—b	1	—с	3	_A	3		
⊐В	2	_ = _	2		1	— — 五	2		
六	3	 七	4					_	
		_							
【IV】配点:7点;問一 各1点 問二 3点									
_ I	3	— II	1	—ш	2	—IV	7	=	2
		_				_		_	
[V]	【V】配点:7点;各1点								
—a	12	—b	2	—с	6	— d	8		
二a	2		4		1	_		_	

## 【短評】

出題形式は例年通りだが、設問数が少なく一問あたりの配点が高くなると予想される。全体としては昨 年並みの難易度と思われる。

- 【 I 】現代文:例年より長めの選択肢が多いが、本文の文章が整然としているので、根拠をつかみやすく、本文の内容をまとめた選択肢を選べれば、解きやすい問題。
- 【Ⅱ】現代文:小説と随筆のハイブリッドで、本文が読みづらくなり「やや難化」。独特な形式で内容をイメージしづらく、正解の根拠をつかみにくく受験生は判断に迷ったかもしれない。
- 【Ⅲ】古文:例年に比べ「やや易化」。単語と文法で解ける問題が多い印象。本文も読みやすく、設問も 意図が明確で解きやすい。
- 【Ⅳ】文学史:難易度は「やや難化」。問一のⅢ・Ⅳが難しく、付け焼き刃の知識では歯が立たないだろう。消去法をうまく使えるかがカギ。
- 【V】国語表現:例年通り。基本的な問題。